

## 地域との対話の概要

平成 24 年 10 月 19 日  
薩 摩 川 内 市

## 【ポイント】

1. ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、9月12日(水)から10月17日(水)にかけて、9カ所のコミュニティ協議会や団体・機関等との意見交換を行った。
2. 地区コミュニティ協議会等においては、内容が漠然として分かりにくいという意見もあったが、市民生活関連や産業活動関連など具体的事業を検討していく上で有益な意見も聴取することができた。
3. また、教育機関(学生)等においては、就職先、遊びや買物の場がないといった若者の視点からの意見があった一方、具体的な取組や人口減少・少子高齢化の課題解決の参考になる意見も出された。

## 1. 経緯

これまで開催された薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会(以下「ビジョン策定委員会」)及び地元作業部会の中で、ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、市内のコミュニティ組織を活用し、地域の具体的なニーズを吸い上げるべきと意見等が出された。

これを踏まえ、去る7月24日(火)から8月3日(金)にかけて、地区コミュニティ協議会(9カ所)との意見交換を実施したが、これに引き続き、更に市民のニーズを吸い上げるべく、9月12日(水)から10月17日(水)にかけて、地区コミュニティ協議会(6カ所)と団体・機関等(3カ所)との意見交換を行った。

## 2. 意見交換日程

## (1) 地区コミュニティ協議会(カッコ内は旧市町村名)

以下の6カ所で実施。いずれの会場も、会長、役員等(数名から数十名)が出席した。

- ① 9月25日(火):八幡地区(川内)
- ② 10月 3日(水):隈之城地区(川内) ※2回目
- ③ 10月10日(水):藺牟田地区(祁答院)
- ④ 10月11日(木):亀山地区(川内)
- ⑤ 10月11日(木):藤川地区(東郷)
- ⑥ 10月17日(水):市比野地区(樋脇)

## (2) 団体・機関等

以下の3カ所で開催。いずれの会場も、学生、会員等(数名から数十名)が出席した。

- ① 9月12日(水):ポリテクカレッジ川内(職業能力開発短期大学)
- ② 10月 2日(火):鹿児島純心女子大学
- ③ 10月10日(水):子育てサポーター(中央公民館子育てサロン)

## 3. 市民等から頂いた主なご意見

### (1) 地区コミュニティ協議会

#### ① 具体的な取組等について

- (ア) 高齢化が進んで農地が荒れ放題になっているが、そうした耕作放棄地等の農地を活用して太陽光パネルの設置はできないか。
- (イ) メガソーラーのパネルの下が活用されておらず、水耕栽培施設のような工場を誘致するなど、有効的な活用ができるのではないか。
- (ウ) クリーンセンターから出る排熱を利用して発電を行い、所内の電気を賄うことはできないのか。
- (エ) 次世代エネルギーは、設置費用がネックになっているので、基金を設けて設置費用を無料にするくらいの思い切った施策が必要ではないか。
- (オ) 市内には山林が多いので、木材からリグニンとセルロースを分離して、バイオプラスチックを作ってはどうか。
- (カ) 個人の出費を抑えるために、太陽光パネルをリースにして、一般住宅に取り付けてもらい、蓄電や売電する仕組みはつくれないか。

#### ② ビジョン等について

- (ア) 取組内容について、いま一つ漠然としているので、もう少し分かりやすい絵ができればよい。
- (イ) 具体的な取組について、家庭、事業所、地域等ごとに、実施可能なもの、期待するもの、実施してほしいもの、などの切り口での表示の仕方もあるのではないか。
- (ウ) 今後、具体的な取り組みとして何をしたいのか、打ち出すメッセージを明確にすべきである。
- (エ) この未来像では、どのようにして施策の効率性を図るのか、雇用が生まれるのか見えにくい。
- (オ) 難しいカタカナ言葉が多いので、注釈を付けたり、可能な限り分かりやすい言葉に置き換えるなど、広く市民に理解が得られるよう工夫してほしい。

#### ③ その他

- (ア) 薩摩川内市には、甕島、温泉、イベントなど様々な資源があるが、それが連携されていないため、交流人口の増加につながっていない。

- (イ) 太陽光発電設備を設置できないような弱者の場合は、売電の制度は電気代に上乗せされて電気代が高くなるだけである。
- (ウ) 次世代エネルギーよりも、定住促進や高齢化対策など、地域活性化を優先してやるべきではないか。
- (エ) マイクロ水力発電などの設置に対して、無利子融資や補助金制度の創設ができないか。

## (2) 団体・機関等

### ① ポリテクカレッジ川内 ((イ)以下はレポートより)

- (ア) 雇用の場(就職先)があり、更には、遊びの場、買物の場など、まちににぎわいがあれば、市内に住んでも(残っても)よい。
- (イ) 人口増加を目指すには、企業誘致等も一つの手法ではあるが、子育ての環境など住みやすい環境づくりをすることで、発展していくのではないか。
- (ウ) 発電等の施設を活用して、薩摩川内市の入口である川内駅を活性化させ、エネルギーのまちであることをPRし、より多くの人を呼び込めないか。
- (エ) 薩摩川内市は豊かな自然もあり、家族でも住めるまちであるので、今から何かつくるだけではなく、元からあるものをアピールするのもよい。
- (オ) 海洋エネルギーについて研究し、メディアに発表していけば話題性を呼び、市のPRにもつながり、ひいては少子高齢化の問題解決にもつながるのではないか。
- (カ) 薩摩川内市には、原子力発電所や火力発電所といった特徴的なものがあり、市の長所でもあり短所でもあるが、身近にエネルギーを感じることができ、次世代エネルギーの足掛かりになる。
- (キ) 現段階の新エネルギーの発電では原発の代わりになるのは難しいので、新エネルギーの効率を上げて、安定した電力を産み出すことができるようにしていく上で、原発は徐々に止めていくべきである。

### ② 鹿児島純心女子大学

参加者が3名で時間的にも制限があったことから、まちづくりへの参加に関する「市民デザイナー」としての基本的考え方や市の取り組みについて、簡単な説明を行った。

席上、参加者からは、ポリテクカレッジ川内と同様、にぎわいの創出の必要性につき意見が出された。

### ③ 子育てサポーター

- (ア) 作り手のいない耕作地を使ってさつまいもを栽培し、これを使って「イモ発電」を行う。  
売電益をコミュニティに還元し、活動費に補てんするモデルを構築してはどうか。
- (イ) 新田神社等、まちが誇れる設備を再生可能エネルギー由来の電気でライトアップしてみてもどうか。

- (ウ) 限界集落対策として、デマンド交通の導入や、耕作放棄地への太陽光発電の導入等を考えてはどうか。
- (エ) 「日本一休まない図書館」に、太陽光発電設備等の「勲章」を与えてはどうか。
- (オ) お年寄りが元気を出してもらえるよう、お年寄りだけのコンサートを開催し、その電源を再生可能エネルギーで賄ってはどうか。
- (カ) 太陽光パネルを自治会館等の屋根に設置し、売電益を自治会の費用に充てる仕組みを各地区で実施する考えはないか。

以上